

中国四国農政局入札等監視委員会 定例会議(第 2 回)審議概要

(ホームページ掲載日:平成 23 年 9 月 12 日)

開催日及び場所		平成 23 年度 8 月 26 日(金曜日)中国四国農政局 10 階第 10 - B 会議室	
委員		西田 三千代(弁護士)、井上 信二(公認会計士) 岸 道康(ジャーナリスト)	
審議対象期間		平成 23 年 4 月 1 日 ~ 平成 23 年 6 月 30 日	
審議対象案件		238 件 うち、1 者応札案件 27 件 契約の相手方が公益社団法人等案件 1 件	
抽出案件		4 件 うち、1 者応札案件 0 件 (抽出率 2%) (抽出率 0%) 契約の相手方が公益社団法人等案件 1 件 (抽出率 2.5%)	
抽出案件内訳	工事	一般競争	1 件 うち、1 者応札案件 0 件 契約の相手方が公益社団法人等案件 0 件
		一般競争	1 件 うち、1 者応札案件 0 件 契約の相手方が公益社団法人等案件 0 件
	業務	簡易公募型競争入札	1 件 うち、1 者応札案件 0 件 契約の相手方が公益社団法人等案件 1 件
		物品役務等	1 件 うち、1 者応札案件 0 件 契約の相手方が公益社団法人等案件 0 件
委員からの意見・質問等に対する回答等	意見・質問		回答等
	<p>1 低入札価格調査結果について 吉野川下流域農地防災事業 平成 23 年度自然環境調査業務</p> <p>・低入札の理由が、昨年度受注した実績があること、業務内容が同じであるということですが、発注者側からすればよく分っている者に、また実績のある業者に安くしてもらえば、民間では良いのだが、公共では、見えない壁、参入障壁というか、実績がものいうことに成りかねない。その辺は特に何か問題はありますか。</p> <p>・きちんとした業者が安く仕事をしてくれるのであれば、税金も少なく済むので良いことではあるが、馴れ合いになってはいけないと思います。難しいところですが。</p>		<p>・価格が下がって、そこがきちんと仕事ができるだろうと判断をする際には、昨年に実績があるというのは、審査する側としての理由にはしておらず、きちんとした技術者がいて、きちんとした仕事ができるかどうか、そこを主眼としたヒアリングをしています。</p> <p>価格を抑えてとか、更なる実績が欲しかったというのは確かに会社側の理由としては、そうなのでしょうが、当方は、求める成果をしっかりとやり遂げてくれるのかを視点としてヒアリングをしています。</p> <p>・今年はありませんが、実績が欲しい目的で、初めて参入してくる時に、価格を抑えてくる業者に対しても、きちんとした技術者を配置して、求める成果をしっかりとやり遂げてくれるのかを、まず見定めています。</p>

	意見・質問	回答等
<p>委員からの意見・質問等に対する</p> <p>2 抽出案件について</p> <p>(1) 平成23年度建設資材価格実態調査業務</p> <p>・このような調査は、国営事業のためにやるのですが、例えば県、市町村がこのデータを参考に使うのですか。それとも別に県、市町村は調査を行うのですか。</p> <p>また、国土交通省でも農業関係とは違うから別にこのような調査を行うのですか。</p> <p>・入札とは関係しませんが、もっと合理的なやり方がありそうで縦割りのような感じがしますが。かなり手間が掛かるのは、致し方ないことですか。</p> <p>(2) 岡山第2地方合同庁舎他事務室改修工事設計業務</p> <p>・ものすごい低価格入札で、1社だけが飛びぬけて低価格で、入札金額に大幅な差があるのですが、珍しい業務なのですか。よくある業務であればそんなに差が出てくるとは思えないですが。</p> <p>・適正な成果品、仕事であったということなんです。配置等を含めて外部に業務発注するより、内部で配置等を検討した方が、より仕事がやり易かったのではないですか。</p> <p>(3) 岡山第2合同庁舎で使用する電気</p> <p>・中国電力の金額と比較する予定価格が全く同額ですが、予定価格は中国電力から買った場合の電気料金を基にしたのですか。</p> <p>・規制緩和で本年度から競争入札の対象になったのですか。また、国の機関はすべて競争入札ですか。</p>	<p>回答等</p> <p>・県、市町村は別に行います。なお、本調査結果はホームページに公表していますので、その所在地に近い所では、参考にしているかもしれませんが、基本的には別です。</p> <p>また、国土交通省も別に行っています。</p> <p>・調査品目が違う点と、受益地に限定した調査方法をしていますので、ちょっと離れますと同じ県でも単価が違い、使用する場所での単価になります。</p> <p>また、調査結果が予定価格の基礎資料になりますので、このような調査方法としています。</p> <p>・事務室の移動を伴う改修で特殊な設計業務です。移動するところの捉え方に差がついたのではないかと考えられます。</p> <p>稀な業務であり、よくある業務であればある程度参考に出るところもあったのではないかと思います。</p> <p>また、落札業者に確認しましたら、実績が欲しいというところで、かなり頑張ったという話を聞いています。</p> <p>・基本的な事務室の配置換えは、発注者側で案を作成しており、それを基に設計しています。</p> <p>・中国電力(株)は公表されている価格であり、また、エネット(株)から参考見積を徴収したところ、たまたま同額でしたので、二者の金額を予定価格にしました。</p> <p>・平成18年度からエネット(株)が参入し落札しました。平成21年度に丸紅(株)が1度参加した以外はずっと二者が入札しています。</p> <p>規制緩和で電力量のしびりが段階的に下がり、現在は50kw以上の機関はすべて競争入札をしています。</p> <p>(以上)</p>	